

## 1. これからの時代に求められる人材

我が国社会の構造的変化に伴い、個人にとっても、社会にとっても、将来の予測が困難な時代が到来

⇒ **変化の中で自ら課題を設定し、他者と協働しつつ、答えのない問題に挑戦して解を見だし、新たな価値を創造できる人材(自立・協働・創造)が必要**

⇒ **様々な能力や得意分野、異なるバックグラウンドを持った多様な人材が必要**

＜重視すべき資質・能力＞

・夢や志を持ち、それを実現しようとする意志、意欲

・生涯学び続け、主体的に考える力

・世代や立場を超えてコミュニケーションできる力

・企画力や想像力などのクリエイティブな能力

・社会に貢献し、責任を果たす規範意識や使命感

・チームワークやリーダーシップを発揮して他者と協働する力

・個人や社会の多様性、異なる価値観等を尊重しながら支え合える力

・豊かな感性、他者への優しさ、思いやり 等

⇒ これからの時代に求められる人材を育成するためには、知識・技能の習得のみを中心とするのではなく、

**主体的に学び考える力をはじめとした多様な資質・能力を総合的に育成することが必要**

⇒ 義務教育段階に比べ取組が不十分な**高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的な改革**が必要

## 2. 高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的な改革

高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を通じて、以下の改革に一体的に取り組む。

### ①知識・技能のみならず多様な資質・能力を育成するための教育内容の改革

(例)・これからの時代に求められる、主体的に学び考える力等の資質・能力を育成するカリキュラムに転換。教科・科目構成や教育内容をさらに見直し【高等学校教育】

・各大学における育成すべき資質・能力(ディプロマ・ポリシー)の明確化【大学教育】

### ②受け身の学習から課題解決に向けた主体的・協働的な学習への転換等の学習・指導方法の改革

(例)・主体的・協働的な学習への転換(指導方法の開発・実践等)、インターンシップ、留学等の主体的に取り組む多様な活動の充実【高等学校教育】

・学生が主体的に問題を発見し解を見だししていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換【大学教育】

### ③意欲、適性、経験等も含めた多面的・総合的な評価等の評価方法の改革

(例)・多様な評価方法の開発・普及と、多面的な評価を徹底するための指導要録の改善【高等学校教育】

・大学教育において何を身につけたかという観点から、学生の学修成果の把握・評価を推進

(学修成果や内部質保証を重視した大学評価への改善等)【大学教育】

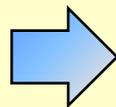
・アドミッション・ポリシーの明確化(ガイドラインの策定等)、各大学の個別入試改革の促進、調査書の記載事項の見直し

(多様な活動歴を反映)【大学入学者選抜】

・達成度テスト(基礎レベル及び発展レベル)(仮称)の創設【高等学校教育、大学入学者選抜】

・多面的・総合的な評価等の丁寧な選抜や評価方法の開発等を推進するための、各大学の入学者選抜実施体制(アドミッション・オフィス)の整備とそのための財政支援【大学入学者選抜】

グローバル化や情報化の進展、  
少子高齢化等の社会の急速な変化



## 我が国社会の構造的変化

- ・生産年齢人口の減少
- ・産業構造、職業構造の変化
- ・人材需要の高度化
- ・経済成長の鈍化
- ・地域間の格差の広がり
- ・格差の再生産・固定化 等

⇒ 個人にとっても、社会にとっても、将来の予測が困難な時代

「一人一人の豊かな人生」と「持続的に発展し、安心できる社会」を実現するためには、人材の質の飛躍的向上が必要



## 【これからの時代に求められる人材】

変化の中で自ら課題を設定し、他者と協働しつつ、答えのない問題に挑戦して解を見だし、  
新たな価値を創造できる人材(自立・協働・創造)  
様々な能力や得意分野、異なるバックグラウンドを持った多様な人材

### <重視すべき資質>

- ・夢や志を持ち、それを実現しようとする意志、意欲
- ・社会に貢献し責任を果たす規範意識や使命感
- ・生涯学び続け、主体的に考える力
- ・チームワークやリーダーシップを発揮して他者と協働する力
- ・世代や立場を超えてコミュニケーションできる力
- ・個人や社会の多様性、異なる価値観等を尊重しながら支え合える力
- ・企画力や想像力などのクリエイティブな能力
- ・豊かな感性、他者への優しさ、思いやり 等

### 各大学でも左記のような人材を求め始めている...

- 東京大学 (※平成28年度入試から実施する推薦入試のアドミッション・ポリシーより)
  - ・「強い意欲を持って学ぼうとする志の高い皆さんを、日本のみならず世界の各地から積極的に受け入れたい」
  - ・「東京大学が求めているのは・・・自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長していこうとする意志を持った学生です。」
  - ・「自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します」
- 京都大学 (※平成28年度入試から実施する特色入試のアドミッション・ポリシーより)
  - ・「多くの人々との交流を通じて、自ら学び、自ら幅広く課題を探索し、解決への道を切り拓く能力を養うことを期待・・・自ら積極的に取り組む主体性をもった人を求めています」

**「これからの時代に求められる人材」の育成を目指し、  
高校教育、大学教育、大学入学者選抜を一体的に改革**

# 高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的な改革に関する考え方(案)

## 1. 基礎学力の保証と、多様性の重視・主体性の涵養

- 教科ごとの知識・技能の習得のみを中心とするのではなく、共通に身につけるべき基礎学力を確保しつつ、主体的に学び、考える力や、多様性等も重視した資質・能力を総合的に育成する教育の実現を、小、中、高、大を通じて完遂することが喫緊の課題。
- PISAにおける好成績、総合的な学習の時間の取組や言語活動(論述、グループ討議、プレゼン、討論等)の充実等に代表されるように、義務教育段階での改革は成果を上げつつあるが、高校教育及び大学教育、さらにこれをつなぐ大学入学者選抜における改革が不十分。高校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革が必要。

## 2. 高校教育の改革

「共通に身につけるべき基礎学力」の保証と、生徒の「多様性の重視・主体性の涵養」

- ◆ 現行入試を念頭に置いた知識中心の教育を改め、創造性やリーダーシップ、企画力などの多様な資質・能力を育成を重視。一方的に教えられる受け身の学習から、多様な生徒が主体的・協働的に学ぶ学習に転換するため、学習方法・教育方法を開発・実践。教育課程の在り方全体についても見直し。
- ◆ ボランティアや留学等も含め、学校内外の様々な学習歴や活動実績等の評価を通じて、狭義の学力にとどまらない幅広い資質・能力を多面的に評価。
- ◆ 高校段階で共通に求められる基礎学力を保証するため、「達成度テスト(基礎レベル)」を導入、学力を底上げ。

## 3. 大学教育の質的転換

多様な学生に対する「主体的に学び、考える力」の育成

- ◆ 従来の知識の伝達・注入を中心とした授業から、学生同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)へ転換するなど、大学教育を質的に転換。
- ◆ 様々な能力や得意分野、異なるバックグラウンドを持った多様な学生を確保し、学内のダイバーシティを創出。
- ◆ 大学教育において何を身につけたかという観点から、学生の学修成果を重視し、社会からの評価・信頼を向上。

一体的に改革

## 4. 大学入学者選抜の改革

各大学の入学者選抜と国レベルで実施するテスト※の連携による高校教育・大学教育改革の目標達成の支援

※「達成度テスト(基礎レベル)(仮称)」及び「達成度テスト(発展レベル)(仮称)」

- ◆ 過度に公平性・客観性を重視するあまり、測定しやすい能力の一部の評価や入学者選抜の一時点で有している能力の評価に留まっている選抜方法を抜本的に改善。知識・技能のほか、これらを活用する力や意欲、適性、経験等を多面的・総合的に評価するものに転換。
- ◆ 知識・技能及びそれらを活用する力については、「達成度テスト(基礎レベル及び発展レベル)」や外部の資格・検定試験等を活用し、各大学が求める一定の水準に達していることを確認することを基本とする。  
その上で、各大学のアドミッション・ポリシーに応じて、入学志願者の高等学校等における学習の記録や様々な活動の経験、討論や発表、小論文、面接、実験、実技などを多面的・総合的な評価を行い可否を決定する方式に転換。

# 高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的な改革に関する具体策のイメージ

## 教育内容の改革

知識・技能のみならず、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら、新しい価値を創造するために必要な創造性やリーダーシップ、企画力などの多様な資質・能力を育成する教育に転換。

### ◆ディプロマ・ポリシーの明確化を推進

・大学評価や重点支援等を通じ、各大学における育成すべき資質・能力の明確化と、教育課程を体系化を推進

### ◆入学後の進路変更を柔軟化

学び直しを行える学修環境も整備

### ◆高大の教育連携を強化

・大学の積極的な情報提供(「大学ポートレート」など、大学の教育情報公開の仕組みを整備)  
・大学教育に触れる機会の充実(日本版アドバンスト・プレイスメントの実施、インターネットを活用した学習支援活動等)

### ◆知識中心の教育からの脱却

・学力3要素※の総合的な育成を目指す教育を周知徹底

※学力の3要素:知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習意欲

### ◆多様なニーズに応じた学習環境(学び直し、才能・個性を伸ばす教育等)整備

### ◆これからの時代に求められる資質・能力に基づき、教科・科目構成や教育内容を更に見直し

○これからの時代に求められる資質・能力に基づき、教科構成、内容等を見直し(道徳教育、英語教育の充実等)

## 学習・指導方法の改革

知識の伝達を中心とした受け身の学習から、課題解決に向けた主体的・協働的な学習に転換。

インターンシップ、ボランティア、留学等主体的に取り組む多様な活動を充実。

### ◆アクティブ・ラーニングへの転換

・大学評価や重点支援等を通じ、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修や、双方向の授業中心の教育に転換

### ◆インターンシップ、留学体験等、能動的な学修への転換(トビタテ! 留学JAPAN等)

### ◆主体的・協働的な学習への転換

・指導方法を開発・実践、ICTを積極活用  
・教職員の指導力向上

### ◆言語活動(論述、グループ討議、プレゼン、討論等)の充実

### ◆インターンシップ、ボランティア、留学、部活動等の、主体的に取り組む多様な活動を充実(トビタテ! 留学JAPAN等)

○言語活動の充実、体験活動の充実  
○課題解決に向けた主体的・協働的な学習の充実、ICT活用の指導の充実

## 評価方法の改革

知識・技能のみならず、これらを活用する力や、意欲、適性、経験等を多面的・総合的に評価できるよう、評価方法を転換。

大学入学者選抜の改革により、高校教育、大学教育を通じた評価の連続性を確保。

### ◆学生の学修成果の把握・評価の推進

・大学全体としての共通の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)や測定・評価方法の開発・実践  
・学修成果や内部質保証(各大学における成果把握と改善の取組)を重視した大学評価への改善

## 多様性・主体性を重視した選抜への転換

### ◆アドミッション・ポリシーの明確化

・求める資質・能力が具体化されるようガイドラインを策定

### ◆各大学の個別入試改革の促進

・大学評価や重点支援等を通じ、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する入試となるよう、強かに推進

### ◆達成度テスト(発展レベル)の導入

### ◆新たな評価手法の開発、専門人材の育成

### ◆調査書の記載事項の見直し(多様な活動歴を反映)

### ◆多様な評価方法の開発・普及

・多面的な評価を徹底するため、指導要録を改善  
・ポートフォリオ(学習履歴)作成推奨や、ルーブリック等の多様な評価方法を開発・普及

### ◆検定試験、各種大会や顕彰制度の活用を拡大

### ◆達成度テスト(基礎レベル)導入、調査書に添付

### ◆各人の能力・適性等を踏まえた進路指導に転換

○求められる資質・能力の観点からの評価の充実  
○全国学力・学習状況調査(活用力問題を含む)の活用

大学教育

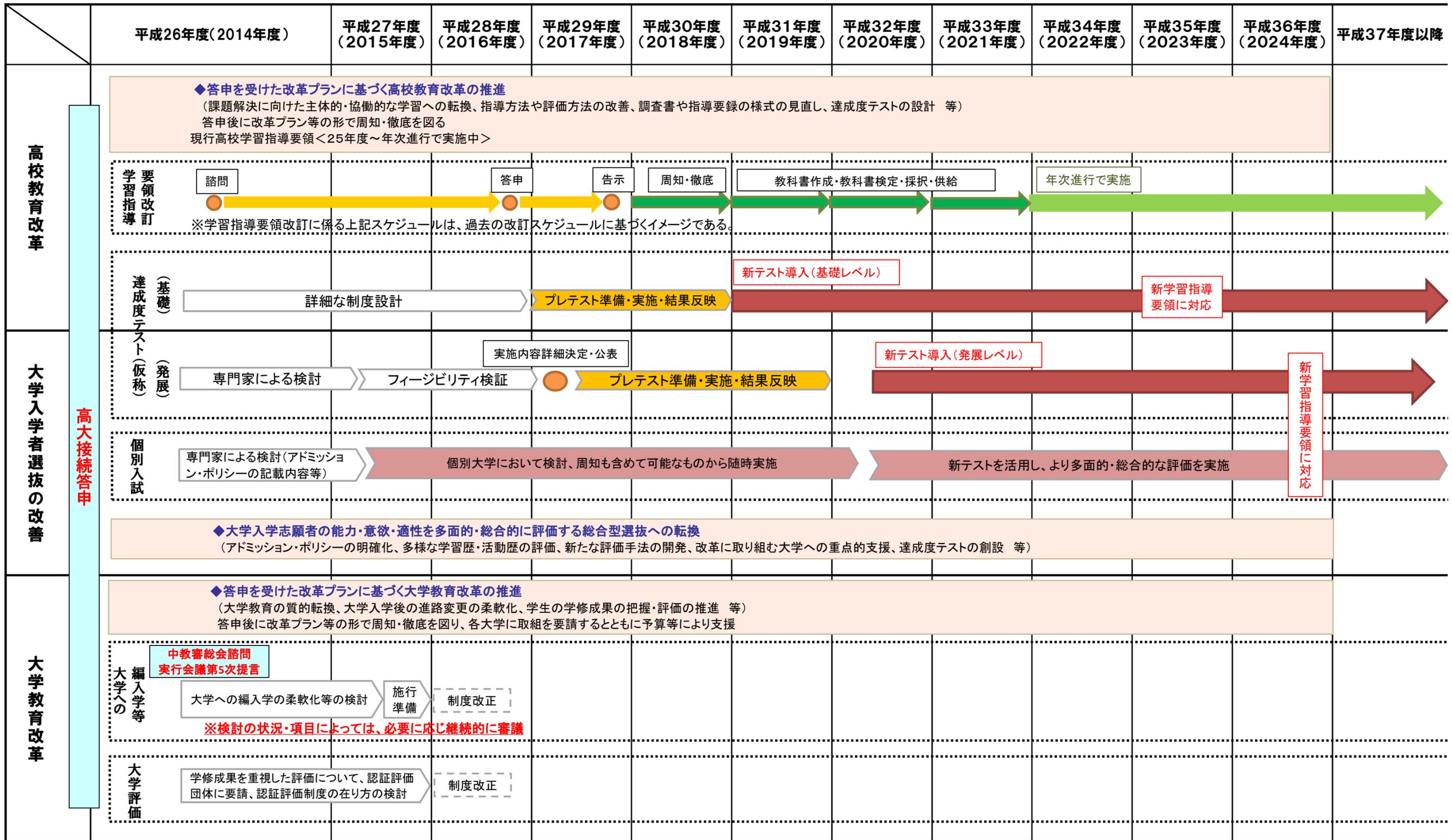
高校教育

小・中学校教育

# 各大学の大学入学者選抜(個別入試)と達成度テスト(基礎・発展)の在り方等について

	個別入試	達成度テスト	
		(基礎レベル)	標準テスト(発展レベル)
目指すべき姿	一般入試・推薦入試・AO入試の区分を見直し、入学者選抜全体において、 <b>多面的・総合的に評価する総合型選抜</b> へ抜本的に改革	高校段階での <b>学力の質の確保・向上</b> と生徒の <b>学習改善</b> を図る。	これからの大学教育を受けるために <b>必要な能力を把握</b> し(知識・技能の活用力を重視)、各大学の個別入試との組み合わせによる <b>多面的・総合的な評価を推進</b>
実現のための課題等	<p>【大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドミッション・ポリシーの明確化</li> <li>・丁寧な選抜を行うための実施体制の整備</li> <li>・新たな評価手法の開発</li> <li>・専門人材の育成</li> </ul> <p>【高等学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査書の信頼性の確保・向上</li> <li>・達成度テスト(基礎レベル)の結果の調査書への添付</li> <li>・進路指導・学習指導の充実(学ぶ意欲や目的意識の明確化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CBTや複数回実施を含めた、実施体制の構築</li> <li>・試験問題の開発・蓄積</li> <li>・成績表示の在り方</li> <li>・回答方式の検討(記述式の導入等)</li> <li>・実施主体の整理</li> <li>・多くの生徒を参加させる方策</li> <li>・高校現場での指導改善への活用</li> <li>・推薦入試、AO入試への活用</li> <li>・「高等学校卒業程度認定試験」との関係の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CBTや複数回実施を含めた、実施体制の構築</li> <li>・試験問題の開発・蓄積</li> <li>・成績表示の在り方</li> <li>・回答方式の検討(記述式の導入等)</li> <li>・多くの大学の活用</li> </ul>
スケジュール取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学・高校をはじめ関係者に答申や改革プラン等の周知・徹底を図り、<b>一体改革の下での入学者選抜の改革の考え方・方向性を共有</b>【答申後すみやか】</li> <li>・<b>重点支援や大学評価</b>を通じ、各大学の改革を促進【答申後すみやか】</li> <li>・<b>アドミッションポリシーの策定事例集とガイドラインの策定</b>【平成26年度中に具体案をとりまとめ】</li> <li>・大学入学者選抜を抜本的に見直し、一般入試、推薦入試、AO入試の区分を廃止し、<b>入学者選抜全体を多面的・総合的に評価する総合型選抜と位置づけた上で、実施時期や実施方法等について新たなルールを構築</b>【平成26年度中に見直しの具体案をとりまとめ】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省内に基礎レベルと発展レベルの在り方について<b>一体的に検討を行う体制を整備</b>【答申後すみやか】</li> <li>・大学入試センター等の関係機関やテスト理論の<b>専門家等による検討組織を立ち上げ</b>、①「合教科・科目型」や「総合型」の問題の具体的な枠組み、②記述式問題の導入、③CBT方式の導入、④成績表示の具体的な在り方について検討を行い、<b>1年を目途に結論を得る</b>。【答申後すみやか】</li> <li>・試験問題の作成、蓄積(アイテムバンクの構築)【平成28年度まで】</li> <li>・プレテストの実施(準備、実施、分析、問題や試験体制への反映)【平成29・30年度】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討組織による検討内容についてフィージビリティを検証【平成28年度まで】</li> <li>・プレテストの実施(準備、実施、分析、問題や試験体制への反映)【平成29～31年度】</li> <li>・上記の検討を踏まえ、可能なものから、現行の大学入試センター試験や各大学の大学入学者選抜において先行的に実施【平成31年度まで】</li> <li>・CBT化に向けた試験問題の作成、蓄積(アイテムバンクの構築)【平成30年度から開始】</li> </ul>
		・新テスト導入【平成31年度】	・新テスト導入【平成32年度】
		・CBT方式の全面導入【平成36年度】	

# 高校教育・大学教育・大学入学者選抜の改革スケジュール(案)



高大接続答申